

(様式第1号)

令和2年度 第1回芦屋市環境審議会 会議録

日 時	令和2年11月17日(火) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所東館3階 大会議室
出席者	会 長 久 隆 浩 副 会 長 秋 本 久 美 子 委 員 市 橋 純 子 委 員 井 上 界 委 員 井 上 尚 之 委 員 近 藤 博 幸 委 員 西 本 恵 委 員 美 濃 伸 之 委 員 福 井 利 道 欠席委員 天王寺谷 祥一 欠席委員 長 城 紀 道 欠席委員 中 島 健 一 事 務 局 森 田 昭 弘 事 務 局 米 村 昌 純 事 務 局 岡 本 祐 子 事 務 局 中 田 博 己 行政職員 藪 田 循 一 行政職員 夏 川 龍 也 行政職員 白 井 宏 和
事 務 局	環 境 課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	0 名

1 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状の交付
- (3) 市長挨拶
- (4) 委員及び行政職員の紹介
- (5) 会 議
  - 1) 会長及び副会長の選出
  - 2) 会長及び副会長の就任挨拶
  - 3) 委員出席状況の報告
  - 4) 署名委員の指名

5) 議 事

- ① 令和元年度の芦屋市環境計画実施状況の報告について
- ② 第5次芦屋市環境保全率先実行計画策定について

(6) その他

(7) 閉 会

2 提出資料

会議次第

芦屋市環境審議会 委員名簿

資料①：第3次芦屋市環境計画実績及び自己評価報告書（令和元年度）

資料②-1：第5次芦屋市環境保全率先実行計画（案）

資料②-2：第5次芦屋市環境保全率先実行計画（資料編）

資料②-3：エコオフィスの手引き（管理者編）（令和2年度改訂版）

資料②-4：エコオフィスの手引き（職員編）（令和2年度改訂版）

資料②-5：芦屋市環境マネジメントシステム(令和2年度改訂版)

3 会議経過

**開 会**

事務局より開会挨拶及び提出資料確認

市長挨拶

委員及び行政職員紹介

市長退席

**会 議**

(1) 会長及び副会長の選出

井上尚之委員より久委員を会長に推薦する意見あり。

<全員異議なし>

近藤委員より秋本委員を副会長に推薦する意見あり。

<全員異議なし>

(2) 会長及び副会長の就任挨拶

(3) 委員出席状況の報告

事務局より、定数12名中、9名の出席につき会議成立と報告。

(4) 署名委員の指名

芦屋市環境審議会規則第5条の2第2項に基づき、久会長より市橋委員及び井上界委員を署名委員に指名。

(5) 会議の公開・非公開の決定

出席委員の全会一致により公開を決定。また、会議録についても公開を決定。

この時点で傍聴希望者はなし。

## 議 事

①令和元年度の芦屋市環境計画実施状況の報告について

(久会長)

「事務局より説明をお願いします。」

(事務局より資料説明)

(久会長)

基本目標ごとに審議会の評価を決めていく。今年から幹事会の評価も入れている。

<基本目標①>

審議会の評価○

内訳

◎1

○9

(久会長)

担当課の評価が、難易度と進捗度の掛け算で自動的に決まっていますが、自動的といいながら、ブレがないかなと思ったのが、事業の進捗度のウエイトが大きいので、進捗度で4や5がつかないと◎には多分ならないです。現状維持とやや効果があったというのは、何で評価されているのか、そこがポイントになると思います。昨年度と比べてなのか、それとも何か目標があって、そこまで達成したかどうかで事業の進捗度を評価されているのか、このあたり担当課にお任せしているということですか。

(事務局)

はい。例えば、同じような内容のイベントを実施していても、その内容や調整団体の数も違っていて、難易度も課によってまちまちなので、担当課に判断をお任せしています。

(久会長)

このあたりの付け方次第かなと思います。先ほどもお伝えしたように、進捗度で4や5がつかないと◎にはならないです。現状維持だと○になる。行政の方は4や5をつけるのが苦手なので、どうしても3あたりになってしまうと、自動的に▲になってしまうので、何か自分たちがここまできたら4や5なのだということをきちんと持っていただくと、4や5の数も増えていくと思います。先ほどの幹事会のお話のように◎でなくて○の数で評価するのか、あるいは◎がもっと積極的につけられるような形で、何か自分たちで評価基準や目標を作っていただいて、そこを達成すると4や5がつけられるよう事務局と担当課の方で打合せて環境の状況を的確に表せるような評価にしていけたらいいと思います。

というのは、後ほど話にあるのですが、ほとんど▲がついてしまっているの、ぱっと見て頑張ってい

ないような印象になってしまいます。頑張っているはずで一定の効果があるだろうと思うのですが、少しそのあたりが的確にシートに表れるような工夫をお願いできればと思います。また時間かけて議論していただければと思います。

<基本目標②>

審議会の評価○

内訳

◎0

○10

(久会長)

事業取り組みの詳細のところ、1つ▲がついている部分で、低公害車を導入する際の補助がなかったもので、▲がついているのですが、ここは微妙だと思っていまして、申請がなくても導入されているかもしれないのですよね。それが本当はいい方向だと思います。市の補助金に頼らず、自分のお金で低公害車を導入していただくのが理想なのですが、こういう申請の有り無しで評価を決めてしまうと、そのあたりの方向性がずれてくるのかなと思いますので、またそのあたりは申請件数で評価をしていいのだろうかというのを、担当課と打合せいただければありがたいです。

<基本目標③>

審議会の評価○

内訳

◎3

○7

(久会長)

事業・取組み詳細の一番上のところで、芦屋景観地区内における建築物の認定を行ったというところで、もともと私も景観審議会と一緒にさせていただいているのですが、芦屋市は全域景観地区になっており、これは全国的に非常に珍しいことなのですけれども、その景観地区に指定されると、小さな建築物であっても、作る時に必ず市に申請をして認定を受けないと建物を建ててはいけないということになります。景観の配慮ができていのかどうかをしっかりと審査されて、認定を受けて初めて建物が作られるということになります。ここで認定件数が、平成30年度425件、令和元年度322件なのですけれども、これはおそらく建物の建築の数というのは様々な条件で変わってくると思うのですが、1つは経済の調子が良くなってくると、皆さん建て替えや新築をする、ということになるので、決して景観のために認定件数が増えているのではなくて、芦屋市の場合は全ての建物が認定になるので、これは建築の数になるので、そうするとこれをどう評価したらいいか難しいですね。増えたらいいのか減ったらいいのか少しわかりにくいので、ここは担当課の方とどうなったら評価が4とか5になるのかを考えていただいて、ひよっとすると認定の数ではないかもしれないと思っておりますので、芦屋の街並みや景観の質が上がって

いくことを的確に評価できるように工夫していただければと思います

少し難しいとは思いますが、認定件数だけでは、なかなか実態として景観の質が上がっていくことを評価できないのではないかと思います。

(井上尚之 委員)

先進性の評価の項目は、誰がつけているのですか。

(事務局)

取り組みや事業の内容を読ませていただいて、昨年と比べて違うことをされていれば◎をつけるといったように、事務局の方で判断しています。

(井上尚之 委員)

施策の評価の方は、担当課、幹事会、審議会の3つで評価をそれぞれされているのですが、先進性の評価の項目は、事務局のみで判断されているということですか。

(事務局)

そうですね、先進性の評価の欄には、新たな取組の評価と先進性の取組みの評価の二つがあり、基本目標①～⑤で、昨年と比べて新しい事業をされていれば、新たな取組の評価の欄に◎を事務局でつけております。

この項目が増えた背景というのが、昨年度の中間評価のときに、「新しい事業を増やしたり、始めたりするのはすごくエネルギーがいることなのに、右のページの色々な事業・取組の中の1つとして埋没してしまっており、他の取組と同じ評価にしてしまっているのか」というご意見をいただいたことを受けて、新しい取組みを始めたことに対しては、1つ別枠で評価をつけましようとなった結果、設けたものです。

(井上尚之 委員)

先進性の評価の取り組みは、右のページの事業・取組のどこに入っているのですか。例えば、先進性の評価として記載されているマナー条例啓発のイエローチョーク作戦は、事業・取組のどこにありますか。

(事務局)

例えば、これに関しては、「きれいなまちなみを保つ」という施策の方向の、下の「まちの美観の維持・向上に努める」というところの、「市民マナー条例」の事業・取組のところに記載しています。全部読ませてもらって、昨年度に入っていなかった項目があれば、担当課に確認をして新しく始めたということであれば、ここで吸い上げています。

(井上尚之 委員)

先進性の評価のところに、審議会の意見の項目がありますね。

(事務局)

これについては、審議会の委員の方から意見をいただきたいと思ひまして、項目を設けています。

(井上尚之 委員)

昨年度と比べて新しく始めていることが、1つでもあれば◎をつけているのですね。

(事務局)

はい、◎をつけることができる項目として設けています。

(井上尚之 委員)

イエローチョーク作戦というのは、どういうものなのでしょうか。

(事務局)

犬のフンは、散歩のマナーとして、飼い主に持って帰っていただきたいのですが、持って帰られずに道路に放置されているものに対して、飼い主の方に気付いていただくように、黄色いチョークでフンに印をするものです。この取り組みを始めたところ、フンの放置がすごく減ったというお声もいただいております。

(井上尚之 委員)

その次の「SDGs トレイン未来のゆめ・まち号を活用した車内広告の実施」というのはどういったものですか。

(事務局)

阪急電車で SDGs に関する車内広告が募集されたようで、それに手を挙げて設置したという事業になります。路上喫煙などに関する市民マナー条例は、市外の方にはまだ周知されていないということで、電車で芦屋市に来られる方への啓発という意味も含めて聞いております。

(井上尚之 委員)

阪急電車が主催しており、そこの広告に応募してということ載せたということですね。

(久会長)

井上委員のご指摘は今後の環境審議会の進め方にとっても非常に重要であると考えておひまして、せっかくこの先進性の中で取上げられているものの中からも少し皆さんへのアピールを含めて、来年は皆さんにこういったことをやりましたというふうに、この審議会の場でも共有させていただけたらいいかと思ひました。SDGs トレイン未来のゆめ・まち号の場合はポスターの現物を審議会で見せてもらえば、私たちもイメージしやすいですので、アピールという観点から、今回は新たな取り組みに関しては具体

的にご披露いただいた方がいいのかなと思いました。

「先進性の評価」という書き方については、ストレートに「新たな取り組み」というように書いてしまった方がすっきりするのではないかと思います。「先進性」というのは他に比べて進んでいるという意味があるので、そこに先進性までいくことができているのかという別の意味での疑問が生じてくるので、「新たな取り組み」とすることで、事務局の担当者の主観でなく、去年はなかったことを今年したので◎にしていますというふうに、客観的に評価していることが伝わるとと思います。そのタイトルも含めてご検討いただければよりすっきりすると思います。

(市橋委員)

審議会そのものが不慣れなのですが、評価の意味が内向き外向きそれぞれでどれほどインパクトがあるのか、まだ把握しきれていない部分があるのですが、取り組みに対して頑張ったことへの後押しがあれば、この基本目標③に関しては◎があってもいいと思いました。

(福井委員)

先ほど久会長がおっしゃられていたように、数値的にわからない項目もありますが、その他の部分に関して、数値が出る部分があると思います。例えば、イエローチョークであれば、チェックの段階で数値的にどの程度減ったか、草刈りであれば何 kg の草を刈ったか、それと合わせて条例の中で色々な取り組みをした中で、例えば違反者がこれだけ減りましたとか、春の芦屋わがまちクリーン作戦であればごみの量が出るので、わかりやすいですが、数値が出る部分と出ない部分があるので、数値が出る部分については、数値を書きいただければ◎とか○をつける上で非常にわかりやすいものとなると思います。評価する際には是非そういった資料をつけていただけたらなと思います。

(久会長)

私は他の市では総合計画、他の分野を含めての評価をさせていただいているのですけれども、行政職員さんだけでなく大学の教員もそうなのですけれども、真面目に仕事をするのが目的化していることがあるので、その成果としてどうなったら自分がやっていることが成功なのかという、いわゆる目標を持たず日々の業務をやっている場合が多いです。先ほど福井委員のお話を違う観点で見たときに、自分の仕事を始めるときに、1年後ここまで持っていこう、こうなったら自分のやっているものの成果が出るというのを常に意識してもらうことによって、1年後の評価がきちんとできると思います。担当課も事業を始めるときに、この1年間でどうしたいのかということを、環境の将来像としてどうしたいのか、それをしっかり持っておけば、そこまで達成できたらちゃんと評価しようという話になってくると思います。全ての施策、事業に対して、きちんと自分たちの目標像をつくらうということを投げかけていただくとよりわかりやすい評価になると思います。

(事務局)

実は、昨年度も同じようなお話になった際に申し上げたのですが、先ほど福井委員がおっしゃった数値につきまして、ご説明させていただきます。環境計画の評価方法については、これまでも色々と検討し

てまいりました。最初は基本目標に対して漠然とした総合評価だったため、指標に具体的な数値目標を掲げることとし、それに対して進んだか進んでないかという評価をしておりました。さらにそれを3年前には、点数化をしまして、総合評価に反映させて、評価の明確化をしたわけですが、そうになると、今度は、数値がひとり歩きをしてしまい、その数値の設定が、そもそも基本目標の達成に対して、正しく反映できているのかといったご指摘をいただきました。そこで、昨年度の中間評価から、大きく見直しをして、目標に対して、もっと大きな目で評価できる方法というのを考えて、今はこの5段階の難易度と進捗度で担当課の評価を図り・幹事会・審議会には大きな目で評価いただくというふうになっております。例えば、個別で数値化できるところは書いていただいているのですけれども、それに対して進んでいるかどうかで評価している担当課もありますが、あまり数値にこだわってしまえば、また逆戻りになってしまうと環境課の方では思っています。担当課にお願いしたのは、目標値、方向性を記入する、令和6年のところなのですが、結局最後どうなっていたい、どういう方法で芦屋のまちを進めたいというのを考えたときに、中間評価のときに実施したアンケートが1つ大きな指標になっていると思います。アンケートの中にもあった、市民の方の満足度が増えるというのは、1つ大きな目標ではないかと思っていて、今自分たちが単年度でやっている事業が市民の満足度いかに反映できているか、というような視点で評価してほしいというのは、お伝えしているところです。例えば、今年度は、コロナでイベントができなくなっていることが多く、公民館の取組みを例にしますと、事業ができなかったということで、事業の進捗度として、1がついてしまうのですけれども、そういうことではなくて、他の取り組みの努力で市民の方の満足度が向上しているような感じがあれば、それは担当課にしかわからないことなので、大きな視点で、進捗と難易度の評価をつけてほしいというような形をお願いしていきたいと思っております。

(福井委員)

数値をなくすことと数値にとられることは別で、数値があった上で他の要素も考えて、◎をつける○をつけるという判断になるのではないかと思います。Actionの中では減少させるということも書いていらっしゃるだったので、いかに減少できたかという部分について、資料としていただきたいという思いです。その数値に到達しなかったときは、他の要素を考える、令和6年度への目標・方向性に向けた中で最終的にゴールを見つければいいのではないかと思いますのですけれども、単年度の評価で○や×をつけていく上では、そういった資料をいただければと思います。

(久会長)

私が申し上げたことと重ねて言えば、事業の進捗度の1点から5点までのところで目標値・方向性に対してどうだったか、と評価をしているのですけれども、目標値であれば目標値、方向性であれば方向性、というのを示していただくとよりわかりやすくなるのかなと思います。ちなみにDoの中のかっこ書きのところに、「取組や補助の内容・成果」と書いていますよね。内容はよくわかるのですが、成果が見たときにちょっとわかりにくいというか、わかりにくいから事業の進捗度が本当にこれで妥当かどうかというところもちょっとわかりにくくなっているのではないかと、まずはそれぞれの方が目標値あるいは方向性というのをどうお考えになっていて、それに対して昨年度はどこまでいけたのかと



というのがあって 1~5 の点数がついている、それを私たちが見てわかるようになってくれば非常に共有がしやすくなってくると思いますので、そのあたりを踏まえた表現の仕方について、担当課と事務局で考えていただければと思います。

前もここで申し上げたと思うのですが、私たちは 100 数十人の学生を相手にしておりますので、その平均をとる方法もあるけれども、こういう学生がこれだけ頑張ってくれたという 1 人の学生のエピソードで今年は成果があったなということもあっていいと思っています。何かターゲットをしっかり持っていて、そこがいったかどうかで判断すれば、数値でない、よりわかりやすい評価ができるのではないかと考えています。そこはまた、お互い工夫をしていけたらと思います。

(近藤委員)

「きれいなまちなみを保つ」の事業・取組名のところで、「芦屋わがまちクリーン大作戦」とあるのですが、我々環境衛生協会はクリーン作戦しかやったことがないのですけれども、意味合いを教えてください。

(事務局)

そちらについては、誤って「大」がついているため、修正しておきます。環境衛生協会さんでされているクリーン作戦のことになります。

(久会長)

市橋委員より◎でいいのでないかという意見がありましたが、どうでしょうか。他にご意見はありますか。ないようでしたら、人数の多かった○にさせていただきたいと思います。

<基本目標④>

審議会の評価○

内訳

◎0

○10

(井上尚之 委員)

先進性の評価のところは、何か新しいことをすれば全て◎ということなのですね。○はないのですか。

(事務局)

◎のみです。

(久会長)

◎の説明のところ、先進的な取り組みがあるので、従来のやり方でも何か二歩三歩進んだら◎がつく、ということですね。

(事務局)

他市と比べて新しい取り組みであれば、先進的な取組の評価のところに入るのだと思うのですが、なかなかそれは難しく、新たな取組の評価しか今回は入れられておりません。

(久会長)

ドライブシミュレーターは面白いと思うのですが、エコドライブの点数が出てくるということですか。

(事務局)

実際にモニター、ハンドル、ブレーキがあるゲームのようなものなんですけど、点数も出ていました。

(久会長)

私事になりますが、私の車にも実は日々の運転のエコドライブを評価する仕組みが入っています。アイドリングをきちんとしているかとか、エコドライブ発進ができていないか、という機能がついています。自分はゆっくり出ているつもりでも点数は低くて、相当ゆっくり出ないといい点数にならないです。自分が思いこみでエコドライブ発進をしているつもりが、求められているエコドライブはもっとゆっくり発進しないといけないなというのが、改めてゲーム感覚でわかるのです。シミュレーターを使うことで、いかに運転すればいいかというのが実感としてわかるので、これをもっと進めてもらったらいいと思います。実際にそういった評価システムが入った車も販売されているので、実はお持ちの車にもついていますということがわかれば、運転するたびに確認できて面白いと思ったので、また進めていってもらったらいいと思います。

(井上尚之 委員)

自動車の話で、P4の事業取組名の中で低公害車の補助とあるのですが、ヨーロッパの国ではEV車にシフトする、ガソリン車を売らないというのを次々と表明しています。世界の潮流では、エコカーはEV車、燃料電池車等を指しており、ハイブリッド車はもはやエコカーとしては認めないというのが主流となっています。芦屋市では低公害車はどういったものですか、電気自動車、燃料電池車でしょいか、ハイブリッド車も含めているのでしょうか。

(事務局)

ハイブリッド車は今年度から対象から外れております。電気自動車、燃料電池車が対象です。

(井上尚之 委員)

世界の潮流には合っているということですね。芦屋市は水素ステーションがないから困っていますね。この平成30年度の1件というのは、日産リーフですか。プラグインハイブリッドですか。

(事務局)

申請があった分の車のメーカーはテスラです。

(井上尚之 委員)

日産リーフや、プラグインハイブリッドも対象になりますか。

(事務局)

電気自動車，燃料電池車が対象となります。

(久会長)

市の公用車でそういった車もありますか。

(事務局)

あります。

(久会長)

というのも尼崎市は市長の車が燃料電池車であり，市長がいろんな会議で乗り付けるたびに，この車は何ですかとなり，市長がPRを兼ねて取ってそういった車を使うという戦略を取っているのです，そういうような上手い使い方ができれば啓発効果が高いと思うので，参考にしていただければと思います。

(井上尚之 委員)

尼崎市には水素ステーションがありますからね。

(福井委員)

先ほど，ドライブシミュレーターの話があったのですが，一番率先してすぐにできるのは市の職員さんだと思うのですが，ドライブシミュレーターを使う講習などはされているのでしょうか。

(事務局)

講習会をされているのかはわかりませんが，共有車両のドアポケットにエコドライブについてのマニュアルが入っているのは知っています。

(福井委員)

例えば，市の公用車が信号待ちからゆっくり発進した場合，後ろの車は自分もゆっくり発進しないといけないという意識になると思います。芦屋市のマークも書いている車ですので，環境に配慮した運転をしていることが伝わりますし，急いでいる人にとってはまた少し違うかもしれませんが，職員がそういった運転をしていれば，それが市民にも広がっていくと思いますので，次はそういった取り組みもあればいいと思いました。

(久会長)

私もそういう運転をし始めてから、本当にゆっくり発進しないといけないので、多分後ろの車はイライラしているだろうなと思います。市役所の方が公用車に乗るときは、エコドライブをやっているのだというふうに、先ほどご指摘いただいたようにPRも兼ねて色々ご検討いただければと思います。

(井上尚之 委員)

車の後ろに環境に配慮しているというのを書いておれば伝わると思います。

<基本目標⑤>

審議会の評価○

内訳

◎0

○10

(美濃 委員)

個別ということもあるのですが、全体を通してもそうですが、1がついているゴミ処理のことで、水銀が基準値を超えたということで1となっていると思うのですが、目標を見てみますと、どちらかというところとしっかりモニターするというのが目標だと思うので、必ずしも1ではないのではないかと思います。このことだけではなくて、先ほど会長がおっしゃっていたように、評価というのは、そのときの出来不出来というものもあるのですけれども、透明性の確保で、現状では何を基準にどう認識して、どうだったかを残して5年後10年後に振り返ることができるというのが大きいかなと思うので、進捗度も含めて後から見てこの状況を、今はご説明いただいたのでよくわかるのですが、書類は残るので、後で見てもわかるような工夫があればいいと思いました。

(久会長)

先ほどから私も含めてご指摘させていただいているとおりに、評価のところの◎を増やそうと思うと何か工夫が必要だと思いますし、市橋委員からの意見で、全体の評価の中で◎がもう少しあってもいいのではないかといいところも含めて、その目標、方向性と評価、3つ目のシートでももう少し◎が増えてもいいのかなと思いました。それと美濃委員がおっしゃっていたように、▲がついているけれどもひよつとすると▲まではいかなくて、何か1つ問題を起こすと全部1になってしまうのもどうなのだろうかというご指摘だと思いますので、そこもまた今年度の評価では工夫していただければと思いました。

他にないでしょうか。

今回私たちも新しいシートに初めて評価をさせていただきました。いろいろ気になるところのご指摘もさせていただきましたので、また来年度よりお互いが共有できるわかりやすい評価にしていければと思います。

② 第5次芦屋市環境保全率先実行計画策定について

(事務局)

事務局より委員のみなさまからいただいた意見を、第5次芦屋市環境保全率先実行計画に反映できるよう備前グリーンエネルギー(株)の担当者を同席させたい旨を提案し、出席委員の全会一致でこれを承認。担当者2名が入室。

(備前グリーンエネルギー(株)担当者の入室)

(久会長)

「事務局より説明をお願いします。」

(事務局より資料説明)

(井上尚之 委員)

この前にアップル社の再生可能エネルギー100%利用というのを調べていたのですが、日本において再生可能エネルギーの電力を調達する手段として現在最も多く使われているのは、グリーン電力証書とJ-クレジット、これを購入するということですね。つまり、完全にCO2ゼロの電気を買えます。自治体も買えるのですが、例えば、グリーン電力証書やJ-クレジット、こういうのを検討されたことはありますか。

(事務局)

まだしておりません。

(井上尚之 委員)

100%再エネで、太陽光、風力、水力、地熱、バイオエネルギーです。J-クレジットは、経済産業省、環境省、農林水産省が共同で運営しています。そしてそこから購入すれば、CO2ゼロです。2018年4月に実施した入札では平均0.86円/kWhということなのですが、ただこれは入札しなければならないのですが、グリーン電力証書やJ-クレジットを使えばもっと減らせるので、一度調べていただけますか。

(事務局)

電力の入札は、芦屋市の環境配慮指針で定めております。環境省の基準に合わせた形でさせていただいているので、環境省にあわせる形で、今後の導入については十分検討可能かと思えます。

(井上尚之 委員)

日本国内の再生可能エネルギーのみの証書としては、グリーン電力証書やJ-クレジットというのがあ

るということで、それを購入すればもっと減らせると思うので、ご意見としてよろしく申し上げます。

(美濃 委員)

資料編で、個別の目標達成状況で○や×がついているのですが、本庁で○がついていて、どちらかというと、それぞれの部署で○があったり×があったりしていて、小学校の中でも○や×があるのですが、これは新しい設備を導入したところは○がついているけれども、そうじゃないところは×がついているという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)

そうです。

(美濃 委員)

新しい設備に依存しないで、各校独特のソフトというか取り組みで目標を達成したものがあれば、こういうところまででくるのもいいのですけれども、成功事例とっていいのかわかりませんが、みんなで共有することで、新しい設備を待つだけでなくこういった取り組みができるというのが紹介できると思います。この○×の要因がわかれば、減らすヒントというか、同じ小学校でも○のところ、×のところがあるので、設備に依存しなくても上手にやっているところがあるのだなというのがわかって、非常にいいと思いました。

(久会長)

職員さん一人一人がどれだけ頑張っているかという評価というのは何か継続的にしているものはありますか。

(事務局)

環境マネジメントシステム（EMS）では、毎年新しい方にエコ・リーダーさんをお願いしており、例えば課内の照明を消す係を決めたり、卓上の温度を測って設定温度を調整するとか、様々な取り組みをしていただいております。こういった小さな積み重ねですがしていただいております。

(久会長)

ISO でチェックをしているのですが、具体的にどれだけの職員数や率でこういった意識が高まっているのかということが、行動計画の職員編がどれだけ進んでいるかの指標となるので、エコ・リーダーさんのように意識が高まっていけばいいのですが、日々の業務の中でどれだけ意識しているかということですよ。先ほども職員編を見せていただきましたが、90分以上離席するときはパソコンをシャットダウンしようとしているのですが、本当にそのあたりをどれだけできているのだろうかとか、きめ細かな積み重ねだと思いますので、そのあたりについて啓発の機会があればと思います。

(事務局)

EMS でエコ・リーダーさんの研修等がありますので、そこで啓発したいと思います。

(久会長)

最近では便利なアプリがありますので、うちの大学でも研修をした後、聞きっぱなしにならないよう e-ラーニング的にクイズを出して、何点以上にならないと聞いたことにしないとしていることもあります。また、環境ではないのですが、最近セキュリティの問題が大学でもありますので、研修を聞いた 2 週間後に情報システム部が偽メールを送って、あれだけ聞いていたにも関わらず 1 割くらいの教職員は開いてしまうので、偽メールを開いたということを再度送っています。そういったちょっとした工夫で意識づけ、動機づけを研修からさらに深めるような工夫を考えていただくといいと思うので、またご検討いただければと思います。

事務局との事前打ち合わせで申し上げたのですが、設備を省エネ型に変えていくというのが一番効いているというのがあって、職員 1 人 1 人の意識の向上の積み重ね以上に、設備更新で非常に効いているなどというご報告もありましたので、そういう意味では、財政課はお金を払う側ですので、積極的にこういうところには投資いただいて、環境にも優しいような市役所になっていただくようなことを私の方からも応援演説も兼ねてさせていただければと思います。お金がかかっても環境に効果があれば積極的にやるという意気込みでやっていただくと嬉しいなと個人的に思いました。

他に何かありますでしょうか。

以上で本日の議題は終わりましたが、全体を通して何かございますか？

ないようですので、事務局から連絡事項をお願いいたします。

(事務局)

本日いただいたご意見を最終の報告書に反映させまして、3 月にホームページで公表する予定になっております。

(閉会)

以上